様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １０ 日現在

機関番号：３２６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２５２８

研究課題名（和文）新教徒移民が初期近代英国文学に与えた文化的社会的影響に関する総合的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study on the Cultural and Social Impacts of the Protestant Immigrants on Early Modern English Literature

研究代表者
山本　真司（Yamamoto, Shinji）

青山学院大学・経済学部・准教授

研究者番号：８０４３４９７６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、初期近代英国の新教徒移民を中心とした移入文化の社会文化的背景だけでなく、欧州大陸からの印刷文化の影響をも具体的にジャンル・カテゴリー別に把握・理解する一方、移民文化との関係でルネサンス「バンケット（砂糖菓子のコース）」文化流通のプロセスを初めて詳細に考察した。英国南東部における画家や印刷工を中心に、初期近代英国におけるカルヴァン派新教徒移民の文化的社会的影響を包括的に調査・研究することにより、当時の印刷文化と芸術の関係への理解を総合的に深めることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究はオランダ系移民の芸術作品などの図像が、絵や美術装飾品だけでなく、詩や演劇などの文学作品にも多大な影響を及ぼしていることを総合的に調査・分析・考察し、さらにその影響が装飾美術やファッション等の物質文化にまで及び、英国初期近代の視覚・装飾文化において重要な役割を果たしていることを明らかにした。また海外協力者と国際ワークショップを国内で多数開催することによって国内外の研究者だけでなく学生や一般の国民に広く研究成果を公開し、さらにそれらを学会や論文の形で発表することができた。

研究成果の概要（英文）：This study examined in detail a process of the cultural distribution of the Renaissance "banquet (dessert course)" concerning immigrant culture for the first time, while attempting to understand categorically not only the influence of the print culture from the socio-cultural background of the immigrant culture led by the early modern British Protestant immigrants but also the impact of the print culture from the continent. The research was able to deepen the general understanding of the relations of the art by researching comprehensive the social-cultural influence of the Calvinist Protestant emigrant in the early modern England led by painters and printers in the southeastern part of the England at the period.

研究分野：英文学

キーワード：英文学　新教徒　移民　イギリス　図像文化

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

ルネサンス期のバンケットと呼ばれるデザート・コースの社会的文化的役割については、二度にわたる科研費によるバンケット・トレンチャー（デザート用装飾木皿）に関する総合的な調査・研究に着手し、これまで等閑視されていた分野に光を当てることができた。その研究の過程においてバンケット・トレンチャーが多く現存している英国南東部に、ある共通の特徴が発見された。英国南東部のノリッジとコルチェスターは、１６世紀後半から１７世紀初頭にかけてヨーロッパ低地諸国から宗教的迫害を逃れてカルヴァン派のフランス人ユグノーやオランダ人移民が多数移住した地域であり、それらの移民たちが多くの社会的文化的慣習や技術をイギリスに移入した。たとえば、バンケット・トレンチャーの図版制作者として有名な版画家にクリスピン・ド・パッセ・ファミリーがいるが、彼らはケルンやアントワープなどを転々とした後、英国に渡りエンブレム図像や王侯の肖像画、植物画などの図版を制作している。地元の人々はそのような移民たちから数々の優れた技術や慣習を学び、イギリス人が自分たちの生活を改善するために取り入れたものも少なくない。両国民の交流の記録は、主にノリッジとコルチェスターの博物館やロンドンの大英図書館やキューにある国立公文書館（ユグノー・ソサエティによる文書コレクション）だけでなくオランダ国立図書館に所蔵されている。ルネサンス期に英国に移入したフランス系ユグノー移民に関してはユグノー協会が 1880 年代から活動し、ロンドンの国立公文書館にコレクションがある一方で、オランダ系移民に関して研究が特に盛んになってきたのは 1980 年代以降である。オランダ移民の影響については、これまで政治的社会的影響について多くの研究がされているが、文化的影響についてはオランダ人が登場する一部の文学作品などに対する影響関係が論じられるに過ぎず、大局的な視点を有しつつも具体的な文学者や印刷技術工に関して、より鮮明に歴史の一場面を切り取るような研究がなされているとは言い難い。

２．研究の目的

本研究の目的は、英国南東部における画家や印刷工を中心に、初期近代英国におけるカルヴァン派新教徒移民の文化的社会的影響を包括的に調査・研究し、印刷文化と芸術の関係への理解を深めることである。平成 21～23 年度及び 24～26 年度の基盤研究(C)で実施した英国ルネサンス期における宴会形式の社会的文化的特徴の考察とバンケット・トレンチャーの図像アーカイブ構築・分類の背景分析を更に発展させるため、本研究では、初期近代英国におけるフランスやオランダ移民の文化的社会的影響を詳細に調査分析し、特にオランダやベルギーなどの低地諸国からのカルヴァン派新教徒移民の高い技術力や職業意識が、当時の英国芸術の発展に多大なる影響を与えたことを、文学や美術、社会制度に関する様々な一次資料から初めて総合的に解明する。

３．研究の方法

③-1 近代初期英国における新教徒移民の資料収集：英蘭両国における資料のアーカイブ構築とそのデジタル化を行い、その現存資料の全貌を明らかにする。まず、現在入手可能な新教徒移民の図像資料の収集を英国とオランダを中心に行い、新教徒移民の包括的アーカイブ構築とそのデジタル化を試みる。また同時に、移民文化と社会の関係を特定できるような手紙や財産目録など、関連一次資料を収集し、新教徒移民の技術が印刷やファッションなどに利用された時代の社会的背景や、文化的コンテクストを理解するために十分活用可能な段階にもっていく。

③-2 構築したデジタル・アーカイブの整理・分析：収集した資料のカテゴリー別分類とそれぞれの文化的背景・意味の分析を行い、新教徒移民が近代初期の英米において、どのように移入し、活動していたかを明らかにし、また、それらが欧州大陸文化からどのようなモノや技術をもたらしていたかを明らかにする。

上記で構築したデジタル・アーカイブを基盤にして、実際にその整理分析を行う。新教徒移民が移入した技術や工芸品などの資料については、宗教的迫害のプロセスとの関わりにおいて、どのように持ち込まれ、使用されたのかについてまとめる。また、英国内において、誰によってどのような目的で、どのように制作され、使用されたのかについて考察する。特に、フランスやオランダ、ベルギーなどの大陸文化からの影響関係を、文学や美術などの印刷文化だけでなく衣服などのファッションにいたる物質文化も含めて包括的に影響関係を考察する。

４．研究成果

初年度の主な作業としては、まず新教徒移民に関する所蔵調査や関連する基礎文献の収集、リサーチを行った。まず、7 月にフランスで開催された国際エンブレム学会に参加し、海外研究協力者と打ち合わせを行い、パリ及びナンシーの美術館で研究資料を調査収集した。主に英国における近代初期のオランダ系移民やユグノー移民の文献資料や関連一次資料のデータ収集を実施した。それぞれの国の博物館と連絡を取って資料を収集し、資料アーカイブを構築するためデジタル化を実施した。英国ではマイケル・バース（グラスゴー大学教授、国際エンブレム学会会長）、マルカム・ジョーンズ（シェフィールド大学教授）らの従来の研究者に加え、新たにロンドン大学のサンドラ・クラーク教授とともに最終年度に開催予定の国際セミナーを開催するための打ち合わせをし、またオランダでは各博物館の学芸員に研究協力を求め、新教徒移民に関する図像・文字文献のアーカイブの構築・分類を進めた。

次年度は、まず基本文献および研究資料を収集するために宗教改革に関する書籍や、その影響があると思われる地域における社会文化史に関する書籍類を購入した。また国内の学会や研究会に参加して同分野の研究者と交流しながら意見交換をはかった。そして、8 月半ばから 3 週間ほど集中的にヨーロッパにおいてユグノーなどの亡命プロテスタントに関する研究資料の調査を進めた。まずベルギーではリエージュにあるワロン生活博物館とグルメ博物館、そしてブリュッセルの美術館・博物館にてルネサンス英国に渡る前の低地地域の食文化・美術の研究資料を収集し、その後、英国に渡り、ロンドン、オックスフォード、コルチェスター、ロチェスターにおいて現地調査を進めるとともにユグノー関連の美術館・博物館を訪問し、初期近代におけるユグノーや新教徒移民の文化的影響に関する調査を継続した。ロンドンにおいては、ルネサンス演劇の観劇をするとともに複数の図書館で文献調査を行い、またスピタルフィールズの現地調査を実施することにより、ユグノー移民が特にシルク産業において英国に与えた影響について調査した。またロンドン大学のクラーク教授と研究主題に関して情報交換し、最終年度の日本における関連セミナーや講演会の開催について打ち合わせを実施した。また夏に実施した渡欧調査の成果については、11 月にエンブレム研究会にて発表を行い、さらに意見交換を行うことにより研究を発展させた。

最終年度は主に英国ロンドンの大英図書館とノリッジにおける近代初期のユグノー移民の文献資料や関連一次資料のデータ収集を実施した。国立公文書館や教会、美術館や博物館などで研究資料を収集し、ユグノー移民の資料アーカイブを構築し、デジタル化と分類を進めた。またバースやジョーンズ、それに各博物館や公文書館の学芸員に研究調査の協力を求め、新教徒移民に関する図像・文字文献のアーカイブの構築・分類を行った。前年度以降、構築する新教徒移民関係資料のアーカイブを順次デジタル化する過程で、英国における大陸からの印刷文化の影響を考察する際の分類方法としては、ジョーンズ（2010)の手法に従い、国別には主に「フランス」からの影響を、またジャンル別分類作業としては、主に「文学、演劇、美術、装飾、ファッション」に分類しながら、それぞれにおける特徴の分析を進めた。また上記で作成したアーカイブや移民文化研究、応用エンブレム学の成果を活用し、研究論文にまとめ、国内の学会で発表した。日本シェイクスピア協会主催の第 58 回シェイクスピア学会では、「セミナー2 シェイクスピアと同時代（前後）の宗教と視覚文化」のコーディネーターを務め、ポスト・リフォーメーション英国における視覚経験の再構築について発表を行い、その成果は青山学院大学『経済論集』に掲載された。また、ロンドン大学のサンドラ・クラーク教授の来日に合わせて広島大学、関西学院大学、京都大学、青山学院大学で開催された講演会とワークショップにおいて、同分野の国内外の研究者多数と交流して関連分野の研究情報交換を行い、その成果の一部は青山学院大学『経済論集』に共同執筆論文として掲載が確定し、現在印刷中である。

本研究は、英蘭におけるオランダ人移民を中心とした新教徒文化移入資料のデジタル・アーカイブの構築により、各資料の個別な社会文化的背景だけでなく、欧州大陸からの印刷文化の影響なども更に具体的にジャンル・カテゴリー別に把握・理解する一方で、移民文化との関係で「バンケット（砂糖菓子のコース）」文化流通のプロセスをも初めて詳細に明らかにすることできた。オランダ系移民の芸術作品、クリスピン・ド・パッセによる銅版画「エリザベス女王」像（V&A 美術館、c.1603)、デルフト陶器の錫メッキ多色絵皿（ロンドン博物館、c.1600）とその影響を受けた例としての英国製バンケット・トレンチャー（大英博物館、c.1600）などの例にみられるようなバンケット・トレンチャーについては、これまでの研究により分類とアーカイブ化がすでに進んでいるため、英国における宴会文化発展の背景となる移民文化の影響を検証する際に、本研究が大きく役立った。またこれらの図像が、絵や美術装飾品だけでなく、詩や演劇などの文学作品にも多大な影響を及ぼしていることが総合的に調査・分析・考察され、さらにその影響が装飾美術やファッションといった物質文化にまで及び、英国初期近代の視覚・装飾文化において重要な役割を果たしていることが明らかにされた。したがって、英国南東部における画家や印刷工を中心に、初期近代英国におけるカルヴァン派新教徒移民の文化的社会的影響を包括的に調査・研究することにより、当時の印刷文化と芸術の関係への理解を総合的に深めることができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 Sandra Clark and Shinji Yamamoto	４．巻 72(1)
２．論文標題 Culture in Translation in Early Modern England: Shakespeare, Hollyband and Florio	５．発行年 2020年
３．雑誌名 青山経済論集	６．最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 山本真司	４．巻 71(3)
２．論文標題 イコノフォビアとペリクリーズの目：ポスト・リフォーメーション英国における視覚経験の再構築	５．発行年 2019年
３．雑誌名 青山経済論集	６．最初と最後の頁 15-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山本真司	４．巻 71(2)
２．論文標題 "Public Acts"としての演劇：NT版『ペリクリーズ』（2018）と上書きする移民表象空間	５．発行年 2019年
３．雑誌名 青山経済論集	６．最初と最後の頁 37-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Shinji Yamamoto	４．巻 71(1)
２．論文標題 Banqueting Trenchers as Emblematic Artefacts in Early Modern England.	５．発行年 2019年
３．雑誌名 青山経済論集	６．最初と最後の頁 39-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 山本真司
2．発表標題 エンブレム化するコミュニティ：ヨナから『ペリクリーズ』へ
3．学会等名 国際エンブレム協会日本支部
4．発表年 2018年

1．発表者名 山本真司
2．発表標題 ”Transgress not salt and trencher”: 16－17世紀英国における「テーブル」作法の視覚文化的考察
3．学会等名 青山学院大学経済学会
4．発表年 2018年

1．発表者名 山本真司
2．発表標題 シェイクスピアと同時代の宗教と視覚文化
3．学会等名 シェイクスピア学会
4．発表年 2019年

1．発表者名 山本真司
2．発表標題 テキストとイメージ、モノの饗宴 －１７世紀前半期英国バンケット・トレンチャーの文学的社会的効用－
3．学会等名 17世紀英文学会全国大会（招待講演）
4．発表年 2017年

１．発表者名 山本真司
２．発表標題 17世紀前半期英国バンケット・トレンチャーと応用エンブレム学の可能性
３．学会等名 日本エンブレム協会例会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考